

第 23 回 全国ハイキング交流集会 報告書

高桑(きたろう HC)、浜田(組織部)

【日時・会場】 10月1日(土)～2日(日) 山口県 セミナーパーク

【プログラム】

10月1日(土) 集会参加者:28団体 79名

主催者あいさつ	日本勤労者山岳連盟副理事長	久保典子
基調報告	全国ハイキング委員長	田上千俊
記念講演	IT時代の山岳遭難	木元康晴
分科会	第一(会・クラブ運営と会員拡大)	座長:石川友好
	第二(山行活動について)《高桑参加》	座長:八木澤昌通
	第三(安全登山のために)	座長:田上千俊
交流会	コロナ対策につき、施設内の飲酒及び談話は禁止のため中止	

10月2日(日)

分科会報告	各座長より
交流ハイキング	山口県 陶ヶ岳-火の山(標高約 300mの急峻な峰の連山)約 3時間

【概要報告】

■基調報告

日本勤労者山岳連盟が日本の山岳会では、ハイキングや自然保護を最初に普及を進めて

きた。その自負を持ってコロナ禍の難局に知恵を出し、多様な登山をしてその難局を乗り越

えよう！ 私たちハイカー層は、登山の歴史を継続させ、後世に引き継ぐ役割があります。

今回の集会では多くの経験、多くの意見を出し合い、元気の出る集会にしましょう。大きな

課題である高齢化問題も率直な意見交換をしましょう。

■記念講演 登山ガイド 木元康晴 「IT 時代の山岳遭難」-スマホを活用した安全登山-

・ヤマケイ新書「IT時代の山岳遭難」2020年発行 著者

・IT時代の山岳遭難

ネットの上位に現れるのは検索エンジンで人気や耳にやさしい内容で、情報の内容を精査

して判断しているわけではない。SNS などであたかも誰でも登れると錯覚して遭難する事例

が増えてきた。

・スマートフォンを活用した安全登山

キャッシュ型 GPS アプリは、登山計画書の作成提出、登山記録、ナビゲーション、山行報告をする地図アプリで「ヤマケイオンライン」「ヤマレコ」「YAMAP」「Geoguraphica」「コンパス EX」等がある。すれ違った人どうしが YAMAP に入っているとその情報が共有でき YMAP の位置情報から遭難者の位置を探ることができる。遭難者を発見する強力なアイテム「ココヘリ」があり、受信機は 2Km~15Km 県警も標準装備をしている。

「山と自然ネットワーク・コンパス」はオンライン上で登山計画書を登山届として共有するシステムである。単独の時に計画書を「コンパス」で事前に送信した場合、紙の登山届（入山当日、登山口でポストに提出）をした場合と比較し検索開始（遭難者発見）が早い。電子登山届は全国 26 都道府県で担当者が見ている。労山等 4 団体の管轄下になる予定である。

難しい山や吹雪の場合は、紙の地図と磁石を使う技術は今後も必須である。

・スマートフォンを活用できない登山者が非難される時代が訪れる

YAMAP やココヘリなどの自分の登山計画や現在地を伝えるアプリがある現状で有料だか
らとって、その備えをしないことに批判を受ける時代になってきたことを深く認識するべき
である。

■第1分科会「会・クラブ運営と会員拡大」15名 8会 浜田出席

- ・高齢化で創設者（会の運営を継承する人）がいなくなると、労山から脱退（解散）する会が山岳会よりハイキングクラブで増えていると複数の県連から報告。リーダー養成が大事。
- ・毎年、登山講座をやっているが高齢者が多く、若い人を迎え入れるのが課題。
- ・退会する人は忙しい人。山に行ける環境作りを考えるのが労山。
- ・若い人を入れることに力を注ぐよりも、今のメンバーが楽しい会であることが大事。
- ・MLもしているが、Line でのグループ化や出欠確認をしている。（複数の会）
- ・県連ニュースと会の機関誌は HP で見てもらっているが、紙でも配布している。両方が必要。
- ・県連の役員を輪番制にしている。

■第2分科会「山行活動について」17名 14会 高桑出席

- ・コロナ禍では、多くの会で山行活動がきたろうと同様に制限されていた
- ・公共交通を控え、自家用車の活用で山行をした（私見ですが都市部以外）
- ・会員拡大についての事例では、新聞社主催の登山学校を開催すると多くの参加者があり、その中から多くの人が入会する。クラブはその登山学校の活動を担う。（会員数が 400 名以上の岡山県の会）
- ・参加者発言で『高齢化問題と言われるが高齢化は現象であって問題ではない』その認識

の

もとに高齢化時代にどう順応するかを考えるべき(山口県の女性会員)

- ・きたろうのサロン部と同様の意図でバラエティーハイクとしてちょっと緩めの多彩な山行をして高齢者の参加を促している(広島か岡山県)

■交流ハイキング 4コース 40名 高桑参加

- ・新山口駅の街並みや瀬戸内海が見える標高約 300mの連峰ですが、全てを縦走すれば累積標高差は 500mを超える歩き応えがあり、見晴らしも良く、クライミングもできる岩場もあり

ます。登山のトレーニングには最適の濃い山でした。

下山後、私の班のSLに新山口駅まで送って頂きました。その車中で金剛山や二上山(女性入山料に驚愕)に興味や行かれたことにビックリしました。

以上